



第 61 回 K L日本人会年次総会 議事録（案）

開催日時：2025年6月28日（土）午前10時30分～11時45分

場所：KL日本人会 第1ホール

出席者：A-0523 安達、A-0746 (0184) 浅井、A-0747 穴田、A-0760 雨宮、E-0151 江間、F-0157 藤井、F-0632 古塚、G-0087 後藤、H-1247 (0006) 星合、H-1249 (0064) 平田、H-1292 保坂、H-1315 林田、H-1326 廣沢、H-1327 堀籠、H-1328 細木、H-1329 佐伯、I-1371 石田、I-1416 岩瀬、I-1417 今枝、K-2581 加悦、K-2620 (0914) 神林、K-2639 (0164) 柏原、K-2641 小林、K-2655 加藤、K-2735 加藤、K-2736 加藤、K-2737 河村、K-2738 門上、K-2739 小池、K-2745 (0930) 桑川、K-2794 梶原、K-2797 安野、K-2798 金島、M-1338 森田、M-1840 (0754) 前田、M-1890 (0042) 森本、M-1931 松田、M-1935 (0005) 奥田、M-1938 (0885) 向、M-1972 松嶋、N-1437 中畑、N-1439 (0906) 中林、N-1462 (0865) 永廣、N-1480 西槇、N-1485 (0001) 二瓶、O-0989 岡本、O-1167 (0866) 岡部、O-1307 大橋、O-1320 大石、O-1330 小俣、O-1331 奥出、S-1172 杉山、S-2135 (0053) 荘司、S-2177 関野、S-2178 宗、S-2184 (0370) 菅原、S-2213 瀬戸、S-2215 (0118) 塩尻、S-2248 関本、T-1921 田上、T-1936 (0801) 高野、T-1960 (0485) 田村、T-1983 竹田、W-0316 若宮、W-0322 (0002) 和田見、Y-1320 柳井、Y-1436 山田、Y-1439 (0013) 安光、Y-1453 矢野、Y-1455 矢島、

以上、参加者 70 名（議決権：91）（敬称略・順不同）

- 定足数の確認／開会 (柳井事務局長)
開会に際し定足数の確認を行い、10時30分定刻の時点で、全体の総議決権数は出席者と委任状合わせて255であり、会則7条2項(a)に基づき本総会は適正に成立したとして開会が宣言された。
開催時の出席者（議決権数）は、理事の最大定員（29名）の2倍以上にあたる70名（議決権数91）。開会までに事務局で受け付けた有効な委任/議決権の数は164（議長に委任164、出席会員に委任無し）であった。（最終的に確定した出席者数70名（議決権数91）、委任含む議決権総数255）
- 議長の選出 (柳井事務局長)
会則9条(a)に従い、星合会長が本総会の議長に選出された。
- (1) 第60回年次総会議事録案の審査 (星合会長)
会員の皆様へ2025年5月26日（総会案内時）にE-mailにて送付された議事録について、審査が行われた。

第60回年次総会議事録案は、異議なく原案通り承認された。

(2) 2024年度事業報告及び会員数推移報告

- ① 2024年度事業報告（要旨） (星合会長)
星合会長より各委員会の2024年度事業の総括報告がなされた。その概要は次の通り。

1 総務委員会

会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の1週間前に招集し（会議室及びオンライン会議）、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または

上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようにした。

1-1 規約関係 決裁基準改定、掲示版ルール改定、会則 21 条婦人部会の廃止について検討

1-2 セカンドホーム関係 特になし

2 企画広報委員会

様々なイベントを開催、好評であったことから引き続き企画運営していきたい。（e スポーツ大会開催、第 6 回秋の味覚を楽しむ会、クリスマス会等）

2-1 会員関係

偶数月に開催の「新規入会者の集い」は、8 月を除き、5 回実施。計 237 名（103 世帯）の参加者があった。

2-2 ニュースレター編集委員会

毎月初旬にホームページへ掲載、E-mail にて会員へのお知らせを発信。対面にて 2 か月に 1 回ボランティア編集員によるニュースレター編集会議を招集し、毎号の特集内容、その時期にあったコンテンツを検討、編集方針を決定。

3 財務委員会

定例理事会にて月次財務報告を行った。AHAM Capital の口座開設承認、期末処理として、雑益計上。2024 年度に処理すべき不良債権は無し。

4 クラブハウス委員会

WIFI 設備の追加更新、図書室カーペット交換、会館東側斜面点検を行い、斜面の状態に問題は無いとの結果を確認

4-1 クラブハウス将来計画小委員会

2024 年 6 月：2024 年 3 月 31 日終了事業年度の決算では、約 3 万 6 千リンギの現金収支マイナスとなったことから、当小委員会で検討後、2024 年度の新会館建設積立は行わないことを理事会に提案、承認を得た。2024 年 6 月第 60 回年次総会で積立金見合いの定期預金残高が過年度の利息も含めて 378 万 7 千リンギとなっていることについて報告を行った。

5 店舗委員会

帝京マレーシアから返却された 2 部屋のうち 1 部屋を朝日トラベルに追加賃貸。もう一部屋については、入居テナントを募集中。

6 文化活動委員会

2025 年 3 月末現在、部活動：15、同好会活動：30 合計：45 の部・同好会が活動。新規発足・廃止ともに無し。イベント申請 4 件等。

7 スポーツ活動委員会

2025 年 3 月末現在、部活動：11 部、9 同好会、合計：20 部・同好会が活動。新規発足・廃止ともに無し。イベント申請：5 件、JSKL 施設利用：2 件

8 学校委員会

1) 園児・児童・生徒数の推移

児童・生徒数は回復基調も、速度は軟調。園児数も、2023 年度前半の年少組一時閉鎖の影響が継続しており伸び悩む。

2023～2024 年度 園児・児童・生徒数の推移

年 月	幼稚部	小学部	中学部	合 計
2023 年 4 月	43	371	110	524
2024 年 3 月	56	373	106	535
2024 年 4 月	47	383	114	544
2025 年 3 月	51	406	115	572

2) 学校教育目標と教育の重点

今年度の学校教育目標は、従来と変わらず「たくましいからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」を掲げ、その実現に向けたビジョンとして、以下の2つの柱を中心に学校経営を進めた。

まず、「めざす学校像」として「入ってよかった、通わせてよかった、勤めてよかった JSKL」を掲げ、児童・生徒、保護者、教職員のすべてにとって誇りとなる学校づくりを推進した。

次に、「めざす子どもの姿」として、「元気で最後まで取り組める子」「誰にでもやさしくできる子」「夢を持って世界へはばたける子」の3つの目標を設定。これに基づき、日常の授業や学校行事、現地校との交流などを通じて、子どもたちの主体性や社会性、そして国際的な視野を育む教育活動を展開した。

3) 教育活動

在外教育施設として、子どもや保護者の期待に応える学校づくり、魅力ある学校づくりを目指し、昨年度は以下の5つの重点項目に取り組んだ。1. ICT教育の充実、2. 英語教育の充実、3. 国際交流学習の実施、4. 心の教育の充実、5. イマージョンスイミング (IS) の充実

4) 2024年度(令和6年度)経営状況

児童生徒数の回復には時間を要すると想定し、授業料を改定して収入確保を図った。一方、幼稚部は教育省からの校納金改定認可が間に合わず保育料が改定できなかったが、学校全体としては黒字で着地することが出来た。

9 教育施設管理委員会

帝京マレーシアとの基本契約(3年)の改定と更新(家賃の値上げ、部屋の返却)、帝京マレーシアとの覚書更新。(会館の使用に関する1年間の覚書)

10 福利厚生委員会

はぐくみ会10回開催。出産準備教室3回実施。オンライン無料健康相談室(バトよしみ先生)11回実施

11 日本人墓地維持管理委員会

春季、秋季年2回の慰霊祭の挙行、日本からの要人等の参拝受け入れ、クアラルンプール日本人学校の児童・生徒他による清掃等のボランティア活動の受け入れ等を行った。

12 ITシステム委員会 特に無し

13 盆踊り実行委員会(2024)

2024年7月20日(土)19:00よりKompleks Sukan Negara Shah Alamにて、第48回盆踊り大会を開催。来場者数推定3万人。大きな事故などなく成功裏に終了した。

14 バザー実行委員会(2024)

2024年11月3日(日)10時30分~15時、第52回チャリティバザーをEastin Hotelにて開催。当日は来場者約800名(関係者ボランティア含む)バザー当日売上げ収益と皆様からの現金ご寄付から次年度の会計監査費と税務申告費の積立金等を除いて、約RM95,000を5ヶ所の福祉施設に寄付する提案を、JCKL 慈善基金に対し行った。

15 新年会実行委員会(2025)

2025年1月11日(土)に第30回目となる新年会を日本人会会館にて開催。2,000名を超える来場者が訪れ、新年を祝う各種イベントを観覧、参加頂いた。事件、事故もなく無事に終了した。

16 海外安全関係

マレーシア及び日本政府の発表、注意喚起や情報提供を行った。

17 婦人部

2024年4月29日~2025年4月28日の主なかたれあ会活動

・定期的なボランティア施設に対する支援活動: プキナナス身障者施設(手芸品の代理販売等)PJスパスティックセンター(施設にて音楽クラス介助ボランティア)

・寄付先福祉施設との交流: 7月~9月 2023年度寄付先福祉施設12施設を視察・訪問。

・チャリティバザー関連: チャリティバザー開催に向けて手芸品コーナー担当。11月3日(日)第52回KL日本人会チャリティバザー2024(Eastin Hotel)チャリティバザー活動収益金(法人会員からの寄付金を含む): RM91,911.39

- ・2月12日(水)バザー収益金ドネーション贈呈式:5福祉施設に総額 RM95,000 を寄付。
- ・かとれあワークショップ:4回のワークショップ実施し、収入から必要経費を引いた RM2,763 を慈善基金へ寄付。6月タマンツグ・ジャングルウォーキング・植林、7月スペイン料理、9月月餅及び発酵の力
- ・日本人会関係イベントお手伝い(慰霊祭、新規入会者の集いなど)

18 全マレーシア日本人会

第45回目のマレーシア全日本人会連絡会が、2024年10月11日(金)ペナン日本人会会議室にて開催された。また、同時に大使館主催の第43回安全対策協議会が開催され、外務省海外安全ホームページから感染危険情報等について、またマレーシアの安全情報が共有された。

② 会員数推移報告

(柳井事務局長)

配布資料参照。

法人会員:24年3月末時点の269社から25年3月末261社へと、年間で8社、3.0%の減少。その前の年度の7社減とほぼ同じ数の減少となった。

個人会員:24年3月末時点で1,244名(ご家族含んで2,976名)から25年3月末時点で1,246名(ご家族含んで2,997名)となり、個人会員数は2名、ご家族を含め21名の増加、わずかではあるものの、数年ぶりの増加となった。個人会員のうちMM2Hの方は、193名から183名へと10名、5.2%の減少。家族会員含め、年間で19名の減少となっている。

賛助会員:299名から287名へと会員数は年間で12名、3.3%の減少。

学生会員:11名から12名へと1名増加。

会員種類	2024年3月末会員数	2025年3月末会員数	年間増減
法人会員	269社	261社	-8社
個人会員 [内 MM2H]	1,244名(2,976名) [193名(331名)]	1,246名(2,997名) [183名(312名)]	+2(+21) [-10(-19)]
賛助会員	299名(585名)	287名(541名)	-12(-44)
学生会員	11名	12名	+1

()内は家族会員も含めた人数

総括

昨年度も法人会員の数は減少したが、個人会員は久しぶりに増加となった。一方、賛助会員数は一昨年は増加したが、昨年度は減少となった。原因について(会員種別ごと)は、法人会員の減少については、依然事業の縮小や撤退、経費節減、或いは代表者の現地人化等が進んでいることによるものと思われる。一方、個人会員については、コロナ禍による大幅な減少傾向を抜け出し、漸く家族帯同での赴任者が戻りつつあると言える。特にMM2Hが依然減少傾向にあるものの、それを上回る個人会員の増加があったということになる。MM2Hの減少については、当地では2021年10月以来、新規MM2Hビザの発給条件の厳格化、更一度重なる見直しを実施されたことによって、新たにMM2Hビザを取得した方が大幅に減少したこと、またMM2Hビザの申請者は2011年の東日本大震災後の数年間で急増したが、それから既に10年を過ぎたことで、ここ数年はビザを更新せずに本帰国する方が増えたことによるものと思われる。よって、MM2H資格の会員数は今後も減少して行くものと見ている。賛助会員は、前年度の増加から再び減少に転じているが、これは講座やサークル活動への参加者がの増減と密接に結びついている。

資料内棒グラフは、白抜きが毎月の個人会員の入会数、黒塗りが退会数を表している。昨年度の傾向は、新規赴任者の増加によって4月と5月に新規入会者が増え、本帰国者の増加によって3月には退会者が増えるという、従前の傾向を示している。

折れ線グラフは、会員数の年毎の変化を表しており、一番上のグラフが各年度3月末時点の個人会員数。グラフから分かる通り、1996年のピークに次いで2015年が2番目のピークとなっている。2020年度と2021年度はコロナの影響で大幅に会員数が減少したが、2022年度以降は減少が緩やかになり、昨年度

はわずかばかりとはいえ増加となった。

また、上から二番目のグラフは KL 日本人学校の年度末の生徒数を示している。2022 年度以降はほぼ横這いの状況となっているが昨年度は 37 名、約 7%の増加となった。これはコロナ禍が一段落し帯同赴任者数が回復して来たことを表していると考えられる。今後数年については、MM2H の減少は続くものの、個人会員の数は増加・回復傾向が続き、会員総数としてはほぼ横這いの状況が続くものと思われる。

以上のとおり説明が行われた。

(3) 2024 年度収支決算案の件（審議）及び監査報告

①決算案の件（当日配布資料参照、千リンギ単位で四捨五入して説明）

（奥田財務委員長）

【事業収入】

2024 年度の事業収入合計は 403 万 1 千リンギとなり、予算計画比 103%、金額にして 9 万 9 千リンギ予算を上回る結果となった。（以下個別説明）

- #3000 番台：会費関係：8 千リンギ予算を下回ったが、99.7%の達成率となり、概ね計画通りと言える。
- #3100 番台：店舗や教育テナントからの収入：1 万 1 千リンギ予算を下回ったが、帝京日本語学院から生徒数の減少に伴い、1 月以降 2 教室が返却されたことによる家賃減少、一方その内 1 つを 2 月からあさひバケーションズが賃貸したことが、家賃収入増減の要因。残りの 1 部屋については現在テナントを募集中。
- #3200 番台：その他収入：予算を 7 千リンギ下回る結果。2024 年度下期分の日本人墓地管理費の大使館からの入金 が 4 月にずれ込んだことが要因。
- #3300 番台：会員活動等からの収入：予算を 12 万 3 千リンギ上回る結果。予算過達の一の要因は昨年 7 月に開催の第 48 回盆踊り大会に伴う収入で MOTAC（観光・芸術・文化省）、Tourism Selangor（セランゴール州観光局）など政府関係からの補助金と、日系企業からの寄付金・協賛金が予想以上に集まったことによるもの。また婦人部かとれあ会のワークショップ開催による収益金 5 千リンギも予算過達に貢献した。

【事業支出】

事業支出の合計は、419 万 2 千リンギで予算に対し 22 万 9 千リンギ少ない結果となった。この結果、会員事業収支は 16 万 1 千リンギの赤字であったが、これは予算比 32 万 7 千リンギの良化となった。（以下個別にご説明）

- #5000 番台：事務局運営に関わる費用：定期維持管理費の削減などで予算比 6 万 8 千リンギの削減。
- #5100 番台：水道光熱費については計画比 2 万リンギ節約。
- #5300 番台：労務費：従業員の給与・福利厚生費の下振れの要因は、退職者の後任者の新規採用が遅れたことによるもので、この括りでは計画比 10 万 8 千の削減となった。
- #5400 番台：購読費・専門家費用：予算超過要因は、昨年 5 月の IRB（内国歳入庁）の課税規定の見直し・厳格化に絡む会計事務所の手数料 2 万 1 千リンギの支払い（= 予算比 1 万 2 千リンギ増）によるものだが、2023 年度の法人所得税が 7 万リンギ以上の節税となった。
- #6000 番台：会員の活動に関する費用：新旧大使の歓送迎会費用等、予算に織り込んでいなかった費用が発生したことで #6010 その他会議費が 1 万 8 千リンギ予算を超過したが、#6006 盆踊りの費用が予算比 2 万 4 千リンギ節約できたことなどで、この括りでは予算比 7 千リンギの削減となった。
- #7000 番台：活動費用・墓地の費用：予算に計上していなかった樹木の伐採、今年 1 月の石破総理参拝に伴う慰霊堂の整備（エアコン・ブラインド交換）等があった為の予算超過が原因。婦人部かとれあ会の活動費削減はあったが、この括りでは 6 千リンギの予算超過となった。
- #8000 番台：会館関係費用：クラブハウスの補修費、改装費で予算比計 2 万 1 千リンギの節約、また予算に計上していた IT プロジェクトの関係の費用や予備費は、これらを使用しなかったことで 2 万 5 千リンギの節約となった。尚、婦人部かとれあ会のワークショップの利益約 5 千リンギを JCKL 慈善基金に寄付している。これらによってこの括りでは 4 万 1 千リンギの節約となった。

【会員事業外収支】

3000 番台：事業外収入：定期預金と MMD の利息収入は余剰資金の効率的な運用で 14 万リング計画を上回った。一方、雑益については、水道光熱費の内、テナントの使用分をテナント各社に請求し入金した金額で水道光熱費の節約に伴い、テナントからの受け取り分もその分少なくなり、予算比 2 万 8 千リングマイナスとなり、事業外収入の合計は予算比 11 万 2 千のプラスとなっている。

9000 番台：所得税：会計事務所の努力により、法人所得税が予算比では 2 万リングの節税となった。従い受け取り利息等の事業外収入と合わせた事業外収支は、予算比 13 万 2 千リングのプラスとなった。

【経常収支】

年度累計実績で 34 万 2 千リングのプラス、予算比では 46 万リングの良化となった。

【財務収支】

新規入会者数から預かった保証金と、退会者に返却した保証金の差額、及び SST(サービス・販売税)の受け取り分と支払い分の差額により、予算比 1 万リングのプラスとなった。

【総合収支】

2024 年度の現金収支実績は 35 万 7 千リングのプラスとなり、予算比では 47 万リングの上振れとなった。現金収支全体は、法人会員や賛助会員の減少で、会費収入は予算の前提通り 1%程度減少したものの、盆踊りの収入が予算を上回ったことが主要因で、収入全体では 9 万 9 千リングの予算過達となった。費用面では全体としてコストセーブ出来たこともあって予算に比べ 22 万 9 千リング出費が減少。また会員事業外収支の予算比 13 万 2 千リングのプラス、財務収支の同 1 万リングのプラスによって、現金総合収支は予算計画比 47 万リング良化の 35 万 7 千リングのプラスとなった。この結果、期末現金残高としては 909 万リングを次年度に繰越す結果となった。

【損益計算書】

総収益は 449 万 2 千リング。一方、償却前費用合計として 415 万 1 千リングがあり、そこから更に減価償却費用と税金を差し引き、当期純損益は 17 万 9 千リングのマイナスという結果であった。

【貸借対照表】

2025 年 3 月末の当日本人会の総資産は、1,629 万リングとなり、前年度末比 12 万 1 千リング減少した。その内、流動資産は前年比 28 万 2 千リング増加し 934 万 8 千リングとなり、一方、土地建物、機械器具、備品等の固定資産は、前年比 40 万 3 千リング減少の 694 万 2 千リングであった。

負債の部：流動負債（会員預かり保証金、前受金、事務局員の賞与引当金、SST の仮受等）と固定負債である退職引当金を合算し、負債の部の合計は前年より 5 万 8 千リング増加して 126 万 2 千リングとなった。資本の部（会員勘定）：新会館建設積立金を合わせて、前年比 17 万 9 千リング減の 1,502 万 8 千リングとなった。

【総括】

2024 年度の現金収支はまず収入面では会費関係の収入減、盆踊りのケータリングテントの収入減、費用面では盆踊りをはじめとする各種イベントの開催費用の増加や、クラブハウスのメンテナンス費用の増加などを加味して 11 万 7 千リングの赤字予算でスタートしたが、盆踊りに関連する収入の増加と各種経費の節約等で、実績は 35 万 7 千リングのプラスとなり、予算比大幅な改善となった。一方、発生主義に基づく損益計算書では、現金の出入りを伴わない減価償却費や引当金の計上によって、17 万 9 千リングの赤字決算となっている。貸借対照表の資本の部の通り、当会は現在、新会館建設積立金を除いても 11.4 百万リングの繰越剰余金を保有しており、財務状況としては十分に健全性が保たれていると考えられる。

②監査報告

(前田監事)

2025 年 5 月 2 日に前田監事および小林監事の 2 名によって KL 日本人会一般会計の監査が行われ、「監査の結果、いずれの会計も財務諸表は適正性を損なうような重要な不正・誤謬は認められなかった」との報告があった。

2024 年決算については、異議なく、承認された。

(4) 新会館建設積立金報告 (平田クラブハウス将来計画小委員長)

2025年3月31日終了事業年度の決算では、約35万6千リングの現金収支のプラスとなったことから、クラブハウス将来計画小委員会より理事会に対し、2024年度決算の現金収支プラス分の35万6千リングを新たに新会館建設積立金に繰り入れることを提案し、理事会で承認されたことが報告された。
この結果、新会館建設積立金の残高は、過年度の利息を含み、約400万7千リングとなっている。

(5) JCKL 慈善基金活動報告 (奥田財務委員長)

・2024年11月5日に Eastin Hotel にて第52回のチャリティバザーを KL 日本人会婦人部かとれあ会が主担当となって開催した。このバザーから得た収益については2025年2月12日にドネーション贈呈式を KL 日本人会会館で開催し、総額9万5千リングを5箇所の福祉施設に寄付した。寄付の具体的な内容については配布資料⑤-1をご参照。
・財務報告：2024年12月31日終了事業年度の決算財務諸表については、配布資料⑤-2~4（現金収支報告書、損益計算書、貸借対照表）をご参照。現金収支：慈善事業収入としてチャリティバザーの収入とその他活動の収入を合わせた慈善事業総収入は、13万9千リングであった。慈善事業総支出：14万5千リングを差引くと、慈善事業収支として、6千リングのマイナスとなった。
事業外収支、財務収支を加味し、年間の総合収支は6千リングのマイナスとなり、その結果期末の JCKL 慈善基金の現預金残高は約17万2千リングとなった。尚、本年2月にこの残高から9万5千リングの寄付を実施している。損益計算書、貸借対照表は配布資料ご参照。財務的には、慈善基金は特段問題なく推移している。
・所得税免税措置の延長申請の件について、2021年に免税措置延長の申請手続きを行い、2022年1月1日から2026年12月31日までの5年間の免税措置の延長が許可されている。

(6) 会則改定の件 (中林透規約担当理事)

会員活動をジェンダーフリーとするため、関連する「第21条 婦人部会」の削除が提案された。
なお、2025年3月定例理事会にて、チャリティ活動委員会の発足が承認されており、これまで婦人部会が長年にわたり行ってきたチャリティ活動は、チャリティ活動委員会が引き続き行うこととなることが説明された。

本件、異議なく、承認された。

(7) 2025年度予算案の件 (奥田財務委員長)

当日配布資料参照。以下の通り説明が行われた。

【事業収入】

#3000 番台：会費関係収入：個人会員数の減少はほぼ底を打った状態になっているが、法人会員や賛助会員の減少を見込み、今年度の会費関係の収入は昨年度と同様に前年比1%減を見込んでいる。この結果、会員関係の収入は前年実績247万7千リングに対し今年度予算では246万リングを見込む。

#3100 番台：テナント家賃収入：#3117の帝京日本語学院の家賃は、生徒の減少に伴って本年1月から2部屋の返却があったことから減収、また#3120のあさひバケーションズの家賃は2月よりその内の1部屋を追加で賃貸により増収となり、これらを合わせると2万5千リングの減収となる。

#3200 番台：その他収入：2024年度下期分の墓地管理料が4月にずれ込んだことで、#3208の墓地の収入は前年比2万6千リングの増収を見込む。

#3300 番台：その他会員活動からの収入：7月12日、13日開催予定の盆踊り関係の収入が、開催形態の変更によって大幅に減少することから、前年比50万4千の減収を見込んでいる。尚、盆踊りの収支については、費用として発生する見込みの額と同額の収入を寄付金で得るという考えで、収支ゼロとしている。

よって会員事業収入全体としては、前年実績比約13%減の349万4千リングを見込む。

【事業支出】

#5000 番台：事務局運営費用：#5002 警備費の増加は最低賃金改定に伴う値上げを反映したものの。

#5003 定期維持管理費の増加：日本人幼稚園の園庭にある大木2本の除去費用、シロアリ対策費、メンテナ

ンス費用の増加などによるもの。

#5008 図書室のコピー機を入れ替え、そのリース料を計上。

#5010 メッセンジャーのバイクの老朽化に伴い、その買い替え費用等を見込む。

#5100 番台：水道光熱費：水道代は前年度実績より2%の上昇を見込む。

#5300 労務費：定昇分約6%に加え、前年度より実質1名の増員となること、今年度より外国人労働者にもEPFの積み立てが義務化されることから、14%の増加としている。

#6000 番台、#7000 番台：活動費用

#6006 盆踊り大会：開催形態の変更に伴い、大幅な費用減となる。

#7002 昨年度までのかたれあ会から今年度はチャリティ活動委員会に変更、活動費用の減額を見込む。

#8000 番台：会館補修費、改装費は会館の老朽化に伴って増加することを予想。

#8006：e-Invoice 対応の為のシステム改修費を見込む。

会員事業支出の予算計画値として今年度は418万1千リングとなり、前年度実績と比較すると1万1千リングの支出減を予測する。

結果、会員事業収支は68万7千リングのマイナス。定期預金利息や雑益、所得税等の事業外収支を加えた經常収支が16万5千リングのマイナス、預かり保証金等の財務収支を加えた総合収支は15万8千リングのマイナスとなる予算計画となっている。

従い2026年3月末の現預金残高としては、前期末の繰越額909万7千リングから、894万リングへ減少する見込み。

総括：

収入面では会費関係の収入減、盆踊りの開催形態変更による収入減等で前年比53万6千リング、約13%の収入減。一方運営費については盆踊りの開催費用の大幅減があるものの、労務費や会館のメンテナンスに伴う費用の増加によって、事業支出は前年比約1万1千リングの減少のみ。これに事業外収支、財務収支を加味すると、前年実績比で約51万4千リングの総合収支の悪化となり、今期の現金収支の予算計画は約15万7千リングの赤字予測となっている。

引き続き日々の運営コストの節約に努め、赤字縮小に取り組んでいくが、会員事業収支は毎年大幅な赤字計画・赤字実績となっており、会費見直しを含めた収入を増やす為の施策も必要と考える。昨年に引き続き、赤字の事業計画となるが、会員の皆様のご理解を宜しく願いたい。

(星合会長)

ご存知の通り、当会の会費は2015年以来この10年間改定しておらず、会員事業収支の赤字縮小、黒字化達成の為にも、会費の値上げを検討すべき時期となってきている。この件については今期、別途タスクフォースを組織して検討予定としており、会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

2025年度予算案は、質問・異議なく、原案の通り承認された。

(8) 2025年度日本人会理事選挙結果報告

(前田選挙管理委員長)

会則・選挙に関する規則に従って選出理事候補の推薦を受け付け、既に会員に通知した通り、法人会員登録名義人から理事11名、個人会員から理事4名が当選したことが報告された。(会員番号順、敬称略)

(i) 法人会員登録名義人からの理事 (定員11名)

①	佐々木 俊輔	Ajinomoto (Malaysia) Bhd
②	奥田 元秀	MUFG Bank (Malaysia) Berhad
③	星合 大	Itochu Malaysia Sdn Bhd
④	藤原 毅	Marubeni Malaysia Sdn Bhd
⑤	牧野 孝祐	Mitsubishi Corporation
⑥	鳴釜 宏充	Mitsui & Co. (Malaysia) Sdn Bhd

⑦	松井 智嗣	Sumitomo Corporation Malaysia Sdn Bhd
⑧	森本 昌明	Tokio Marine Insurans (M) Bhd
⑨	細川 純治	Panasonic Malaysia Sdn Bhd
⑩	塩尻 篤秀	Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia Bhd
⑪	中林 透	Hong Leong Assurance Bhd

(ii)個人会員からの理事（定員 4 名）

①	安達 由和
②	加藤 誠
③	松尾 義裕
④	杉山 雄一

なお、理事選挙時点で Ajinomoto (Malaysia) Berhad 登録名義人であった、佐々木俊輔氏は、人事異動の為退任、同社後任登録名義人の和田見大作氏へ交代され、5月定例理事会にて承認を得ている。

- (9) 2025 年度新会長選出報告 (柳井事務局長)
 選出理事 15 名により構成される第 1 回暫定理事会（5 月 20 日開催）にて新会長を互選し、
 星合 大（ほしあい だい）氏 Itochu Malaysia Sdn Bhd が全会一致で選出されたことが報告された。

- (10) 2025 年度任命理事氏名の報告 (星合新会長)
 第 2 回暫定理事会にて、次の 14 名が任命理事に選出されたことが報告された。（敬称略・順不同）

(i) 個人会員又は法人会員登録名義人の中から

1	浅井 隆裕	Aeon Co (M) Bhd	法人登録名義人
2	柏原 貞俊	UMW Toyota Motor Sdn Bhd	法人登録名義人
3	神林 義之	Likearisingsun Sdn Bhd	法人登録名義人
4	桑川 勇樹	Mizuho Bank (Malaysia) Bhd	法人登録名義人
5	荘司 憲一	Toyota Tsusho (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
6	菅原 美奈子	Japan International Cooperation Agency (JICA)	法人登録名義人
7	高野 光一	JETRO Kuala Lumpur	法人登録名義人
8	中林 徹	Sojitz (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
9	永廣 一記	Hitachi eBworx Sdn Bhd	法人登録名義人
10	平田 順久	Sato Kogyo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
11	向 和史	Eneos Corporation	法人登録名義人
12	安光 晋作	Japan Airlines Co Ltd	法人登録名義人
13	山内 丈治	Hakuhodo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人

(ii) 在マレーシア日本国大使館から

1	廣沢 美佳	Embassy of Japan	個人会員
---	-------	------------------	------

- (11) 管財人の選出
 5 月定例理事会にて、2025 年度及び 2026 年度の管財人には、前回に引き続き、森田益充氏が推薦され、
 年次総会に提案された。

本件、異議なく、承認された。

(12) 星合新会長の挨拶（要旨）

皆様、こんにちは。クアラルンプール日本人会、会長の星合と申します。

2021 年度に日本人会理事となって以来、婦人部担当理事、盆踊り実行委員長、学校運営理事会理事長、副会長などを歴任し、2024 年度から会長を務めさせて頂いております。

はじめに、日本人会の運営にあたりまして、多大なるご協力を頂いております理事、顧問、監事、管財人、そして在マレーシア日本国大使館の皆様をはじめとする多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

日本人会は「会員相互の親睦と互助、マレーシアと日本の友好と親善の促進」を会の目的に掲げ、これまで多くの活動を行って参りました。今後もこの会の目的に則り、在留邦人の皆様の心のよりどころとなり、もっと活用しなくなるような魅力的な日本人会を目指して運営に努めて参ります。

2024 年度も例年に引き続き、新年会、盆踊り(2025 年度は Sunway にて)、チャリティーバザーといった主要なイベントが盛大に開催され、多くの皆様にご参加頂きました。2025 年度も各実行委員会が準備に邁進しておりますので、会員の皆様も是非楽しみにして下さい。

また、イベントとは別に日本人会が担う役割として、クアラルンプール日本人学校の運営母体というものがあります。在留邦人の子女教育の良好な環境を整え、将来を担う大切な子供たちの健全な成長を後押しする重要な責任を、今日ここで改めて皆様にお伝えし、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、昨年のご挨拶でも申し上げましたが、時代の変遷やコロナ禍後の経済状況の変化により、日本人会の会員数やクアラルンプール日本人学校の生徒数が減少傾向にあります。さらに会員企業様からの寄付金の減少など、日本人会を取り巻く環境は依然として厳しく、数年事業収支の赤字が続いているなど、運営基盤や財政基盤は盤石なものとは言えない状況が続いております。

また、ジェンダーフリーなど新しい時代の流れに沿って形に日本人会を変革する必要も出てきております。その一環で、長きに渡ってチャリティー活動を支えてきた婦人部かとれあ会をチャリティー活動委員会として新たに生まれ変わらせ、男女問わずチャリティー活動に参加できる仕組みを構築致しました。この機会に是非積極的にチャリティー活動にご参加下さい。

このように厳しい環境下ではありますが、持続可能な経営に向けて、理事会及び事務局メンバーと連携しながら、全力で取り組んで参りますので、会員の皆様におかれましても、何卒ご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。皆様とともに、より良い日本人会を築いていけることを楽しみにしております。

(13) 質疑応答：特になし

■ 閉会の辞

(柳井事務局長)

以上